

# 新入職員の皆さん

社会医療法人 耕和会 理事長  
社会福祉法人 耕和会 理事長 迫田 耕一郎



耕和会の職員有志が先日、小生の古稀と柴田 紘一郎先生の喜寿を祝ってくれました。

こちらが迷惑をかけどうし、多大のご支援を賜っているのに感謝に絶えません。

小生は昭和23年（1948）3月生まれ、2万5千7百日余りを奇跡的に生きています。



西郷隆盛が没した70年後（1948-1868）に生まれ、孫とも明治生まれの祖父とも70歳離れています。ご先祖や父母にそして妻や子供、孫に感謝です。

150年前、明治維新に遭遇した西郷隆盛は“暗夜を憂えるなかれ、一燈を引っ提げていく”という言葉を残しました。この世は儘ならないものだろう、使命を全うするには掘りどころになる信念を持つことである、それが頼りになる。これは小生の大きな道標の一つです。選択した医療福祉の道を歩み辿りつく先が見えません。標識のない山に登っているようです。幸いなことに地域や患者さんに興味深い人生の物語を聞かせて頂き生き方や死に方のコツを学びました。それは私の心を開き決意を促してくれるものでした。そうして重ねた年月、その軌跡が生きた証です。その延長線上でしか死ねないと思っています。

古希 寿



時代に任せ49歳で逝った西郷や先に逝った同級生を思うとき、生きることはラッキーの重なり、そうつくづく思うのです。大河の流れの一滴はいずれ大海原へ向かい灼熱の太陽が天へ蒸発させてくれます。この命いつまで患者さんに必要とされるでしょう。いつまで家族に必要とされるでしょう。遠回りかも知れませんが患者さんの声に素直に耳を傾け、愛する人に真剣に寄り添ってみよう、そう思う今日この頃です。

“月がとっても青いから 遠回りして帰ろう  
あの鈴懸の 並木道を 思い出の道を さあ帰ろう”

新入職員の皆さん、職業人としてプロを目指していますか。そのために必要な決意をしましょう。

1. 育んでくれたご両親への感謝を忘れない
2. 自分のことより周囲のことに気を使う
3. 心の灯を絶やさない

皆さんが成長するから耕和会も成長します。耕和会は良い仕事を出来るようにサポートします。苦しいときは先輩に相談しましょう。

“命短し 恋せよ乙女 赤き唇 褪せぬ間に  
熱き血潮の 冷えぬ間に  
明日の月日の 無いものを”（ゴンドラの唄）



桜(写真)は、同法人の介護老人保健施設「サンヒルきよたけ」のものです。